

ゆりきみまさ 由利公正を

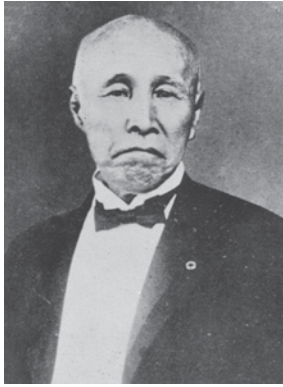
めぐる早慶戦

（早稲田、慶応の創始者と由利との関わり）

明 治初期の由利公正をめぐる早慶戦。とはいっても大学野球

ではなく、早稲田大学と慶応義塾大学をそれぞれ創設した大隈重信、福澤諭吉と由利の関係についてご紹介します。

まずは、大隈と由利。二人は、明治新政府の財政を担当し、それぞれの政策は二人の名前をとって「由利



大隈重信肖像（国立国会図書館蔵）



福澤諭吉肖像（国立国会図書館蔵）

財政（慶応4（1868）年〜明治2（1869）年）「大隈財政（明治2（1869）年〜4（1871）年）」といわれています。二人は共に明治初期の財政の危機を乗り切った貢献者ですが、財政に対する考え方は大きく異なっていました。

由利は横井小楠の国富論に学び、市中に資金を供給することで国全体の産業活動を活性化させることを目指していました。

指し、太政官札を発行しました。混乱期の通貨供給の手段として重要な役割を果たした太政官札でしたが、外国公使からは、太政官札が不換紙幣であること、乱発により信用が低下すること等の懸念が示されました。外交官出身で外国の矢面に立たされた経歴を持つ大隈は、外国との関係に重点を置き、由利の後の財政担当として、幣制の確立などを行っていきました。

次に、福澤と由利。二人は、新しい関係にありました。由利の長男、丈夫は福澤の姉の子（姪）と結婚しています。また、福澤が演説専用の「明治会堂」の建設（明治14（1881）年完成。後に明治生命や専修大学発祥の地ともなります。）にあたり、東京府知事を務めた由利の洋式邸宅（築地木挽町（現在の銀座））を購入していますが、これは二人の親密な関係があったからといわれています。

また、福澤は、明治13（1880）年、「交詢社」を創設します。「交詢社」は、学校教育を終えた社会人を参加対象とする日本最古の社交機関です（現在も活動を継続しています）。めざましく変化する実社会に対応するため、各人が互いの知識を交換し合っ、流動する社会の実務に対処

する機会を提供しようとしたのが設立の目的でした。由利は、実学を重視した福澤の考えに賛同し、三井中興の祖といわれる中上川彦次郎などとともに、「交詢社」常議員にその名を連ねています。

大隈と福澤、二人の由利との関わりを見ると、明治という新しい時代の日本をどう導くか、考え方の違いが現れてきます。

関連史料・ゆかりの地

明治会堂・ 専修大学発祥の地



明治会堂之図（専修大学蔵）

ふくざわゆきち 福澤諭吉らにより建築された演説会場「明治会堂」。由利公正の洋式邸宅を取得し作られました。ここは、その後、明治生命、専修大学発祥の地ともなります。今は、歌舞伎座裏の松屋通り沿いに「専修大学発祥の地」記念碑が残っています。

【住所】東京都中央区銀座3丁目14-13（歌舞伎座裏）（東京メトロ日比谷線東銀座駅より徒歩5分）

参考資料等

落合功「由利財政と第一次大隈財政」『修道商学』第46-2
明治生命保険相互会社『阿部泰蔵伝』